

記念講演 「RI 100年の意義」

Memorial Lecture



黒田 正宏 パストガバナー
黒田内科胃腸科医院 院長

【プロフィール (ロータリー歴)】

1978年	八戸南ロータリークラブ入会
1990~91年	八戸南ロータリークラブ会長
1998~99年	国際ロータリー第2830地区ガバナー
2001~02年	
2002~03年	ブリスベン国際大会推進ゾーンコーディネーター
2003~05年	国際ロータリー研修リーダー
2003年9月	第7回日韓親善会議幹事
2003年9月	国際ロータリー第2780地区RI会長代理
2005年10月	国際ロータリー第2800地区RI会長代理

あと、10日で2月23日を迎えます。ちょうど100年前にポール・ハリスは4人の実業家とシカゴでロータリークラブを始めたわけです。きょうはスライドを作りましたので、説明させていただきます。

弁護士のポール・ハリスは1900年に不況で貧富の差が厳しく、商業道徳のめっちゃくちゃな、ギャングの横行するシカゴでは、「商売上、業界人の知り合いは本当の友人にはなれない」と思ったそうです。お互いに信頼できない、そのとき限りでだまされた方が損であって、どうしようもないというシカゴの中で、ポール・ハリスは自分が青年時代を過ごした谷間の温かい友愛の心を仕事上の仲間であっても持てないかということに5年間考えました。

そして、ポール・ハリスは仕事上であってもその会員が定期的に2週間とか、あるいは1週間に1回会えば、本当の友達になれるのではないかと考えて、自分の弁護士事務所の顧客であった石炭商のシルベスター・シールと鉱業技師のガスタバス・ローアに働きかけました。さらに、ガスタバス・ローアは友達の仕立屋のハイラム・ショーレイに働きかけ、1905年2月23日の夜、シカゴのユニティービル711号室のガスタバス・ローアの部屋に集まって、そこで、ポール・ハリスはほんこんと自分の5年間、温めてきた考え方を説明しました。そうしましたら、確かに職業人であっても一業種一会員であればいいのではないかと。定期的

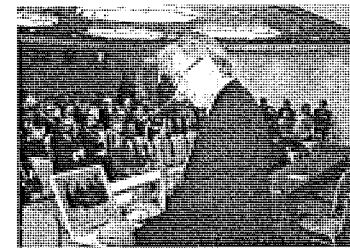
に会うとごまかすことができないし、信頼関係ができてくるのではないかとということで、ここにロータリークラブが出発したわけです。この部屋は、その後、この建物が壊されるときに、そのままシカゴ市内のロータリークラブが買い取って、今、国際ロータリーの本部に残っています。

4人で出発したシカゴの1クラブが100年後の今は、166の国に及んでいます。クラブは約32,000クラブ、会員は約121万人になっています。うち、日本の会員は約10万人で、世界のロータリアンの8.58%を占めています。10年ほど前は1割を占めたのですが、日本の会員減少が強く、現在は8.58%に落ちています。この100年の間に、国際ロータリーはこれほど発展に発展を遂げて、巨大な、複雑な組織になってきたわけです。これは簡単になってきたのではなく、なってくるまでの大変な先輩の努力がありましたので、そのことにちょっと触れてみたいと思います。

いちばん最初にロータリークラブを作るときポール・ハリスは職業人であっても、取引関係であっても、本当に友だちになれるように最初は親睦を中心にして、お互いの相互扶助、職業人であっても信頼できるようになることが先決だと考えていたわけです。しかし、このクラブが発展するにあたっては、やはり、すぐに異論が出て、自分たちのクラブの内輪だけの親睦だけではだめだ。

シカゴ市内のいろいろな問題、貧しい人たちにサービスをすることも必要だ。そこではクラブの中だけでいいんだという意見と、もっとクラブを出て、シカゴ市内で奉仕をしないとロータリークラブは発展しない、生き残れないという意見が出て、激しい論争が続きました。一時期、ポール・ハリスはほんとうに落ち込むような状態になりました。親睦派と奉仕派が調和を探し出して、これを超えてきたわけです。その次に、これを超えて、親睦と奉仕のバランスをとるようになりましたが、これにはあとで触れます。

では、奉仕活動をするのであれば、例えば、身体障害者のリハビリなどはひじょうに良いことだから、リハビリを応援しよう。しかも、アメリカ全体でやろうという実践派、いいことであれば、どんどん実践しようという実践派と、いや、ちょっと待て。ロータリークラブは元々は職業人で自分たちのビジネスがしっかり行われるように、しっかり基礎を作るために、職業人の友情を築くためにできたのだから、ただただ、良いからといって手を伸ばすと、ロータリークラブの元々の出発点が崩れてくるのではないかと、ロータリーの奉仕の理論を作った理論派との対立が大きくなりました。



すばらしい理論派であった皆さんご存知のシェルドンは、「最も良く奉仕する者は最も多く報われる」といいましたが、これは金銭的に報われるだけでなく、精神的な意味も含みますが、それにしてもクラブでも実践派の間に辛くなり、いられなくなったポール・ハリスもこのときに落ち込んで、例会に出なくなって、全米ロータリアンの組織の仕事をするようになり、一時、ロータリーはつぶれそうになりました。しかし、そのあと、アメリカの先輩の方々が、調和を探して、皆さん、ご存知の社会奉仕23-34条にあるように、バランスをとる理論的な裏づけをして、奉仕活動もしながら、それも乗り越えてきて、今のロータリークラブの基礎ができました。

そして、やっとすばらしい基礎ができたかと思ったら、第一次世界大戦で、ドイツを中心にロータリークラブをどんどん解散していく。しかし、お互いにロータリアン同士が戦争で戦わなければならない。でも、世界にはもっと貧しい国があるからということで、ロータリアンは戦争を乗り越えて、つぶれなかったわけなんです。そのあとにひじょうに厳しい経済大恐慌にぶつかりました。日本の現在は経済的な厳しさが基礎にあって、会員が7年間減少していますが、それと似たようなことがありました。それもロータリアンは会費を安くしたり、会場を変えたりして細々と乗り越えてきました。いちばん困ったのは、「ロータリーの職業倫理はひじょうにいいことを書いているが、これは裏を返すと宗教の世界に入っている。それは哲学で職業倫理が入っているので、司祭関係はロータリークラブを退会するように」ということがローマ法王から出て、宗教関係のロータリーキャンペーンが大恐慌の時代に出ました。そして、ナチスドイツのユダヤと結びつけて、ロータリークラブはフリーメーソン（秘密結社）である。それが日本にもナチの時代に来て、国の方針で戦前には日本のロータリーは解散しなさい。それで、東京クラブや大阪クラブなどは水曜会や木曜会と名前を変えて、英語を使わないで第二次世界大戦を乗り越えてきました。

このようにロータリーがつぶれそうな時はいくつもありました。経済的な問題、戦争、親睦派と奉仕派との対立、実践派と理論派との対立などがありました。実践派との対立があったときには、理論派は公衆奉仕をあまりに重視しすぎる、団体奉仕がだめなのは納得いかない実践すればいいのではないかと。これから、元ロータリアンがロータリーと同じような他の奉仕団体を作りました。こういう歴史があって、現在ロータリーは100周年を迎え、皆さんと共にこうしてロータリーの運動をしているということを振り返っていただきたいと思います。

最近、日本の菅生浩三 RI 直前理事が日本の立場から見ると、ロータリーが100年間持続した理由を簡単に挙げています。川口ガバナーはそれを引用して月信に掲載していますので、皆さんもご存じだと思います。

- ①ロータリーの先輩たちが奉仕の理念の基礎を作った。
- ②職業倫理をいつも基礎にしっかり抑えてきた。
- ③自分の地域および国際社会での貧しい国々への奉仕活動を実践してきた。単なる献金だけではなく、実践してきた。
- ④会員の親睦と奉仕の一体化、調和を保ってきた。
- ⑤ロータリーはあくまでもクラブが原点であって、クラブの連合体が国際ロータリーであり、国際ロータリーはガバナー、地区リーダーシッププラン（ガバナー補佐）は地区と一緒に協力して、クラブの活性化を促すために、クラブの情報を流すために、クラブの相談を受けるようにするために、ロータリー運動はある。あくまでもクラブが原点である。
- ⑥会費からでなく、寄付によって、あるいは奉仕活動のボランティアによって、ロータリー財団を自分たちの地域、あるいは世界のいろいろな地域でやっていく。
- ⑦クラブの会長、幹事は順次交代で、同じ人が続けてやらず、毎年交代していく。クラブのリーダーも固定しないで、次々と変わっていく。そして時代の変化、地域の需要に応じて教育システムも変えていく。

大切なことは、会員の親睦と奉仕の一体化です。これは世間でよく言われているように、ロータリークラブは単なる仲良しクラブや社交クラブではない。あくまでも事業主の信頼感を築くように、自分のビジネス、職業がしっかりできるような基礎を作るためにロータリークラブは出発したのであって、単なる仲良しクラブではない。アメリカはどうしてもキリスト教ですから、自分の仕事を天職、神様が与えた職業と考えていますが、自分の天職をきちんとやる、基礎を作るために、事業主の方々と親友になれるように。奉仕の理想を追求するための会員相互の親睦と友情強化。単なる仲良しクラブではなく、行く行くは自分の仕事を倫理も兼ねてきちんとやるように、お互いに職業倫理を振り返りながら、学んで、高めていこう。そういうための友情である。やはり、自分の仕事をきちんとやるためには、結局は地域の人々

のためになろうとするアイデアを交換する場としての友情と親睦を目的としている。そこで、自分の仕事上の利益と他人のために、人々のためになろうとする利他との調和をとっていく。これが奉仕だという考えで、このロータリーはできている。

一方では、ロータリー財団はアーチ・クラフ RI 会長が1917年に訴えかけたものです。それは基金を作って、全世界規模で貧しい国々に慈善、教育活動、社会奉仕、環境保全などの人道的な面でよいことをしようと提案したわけです。これは自分たちの会費とは別に、それぞれの判断に応じて寄付していただいでやっていこう。今、ロータリー財団も一部は自分たちの地区の奉仕活動に使えます。寄付されたお金をすぐ奉仕活動に使う年次寄付と、財団の基金そのものの組織を固めるための恒久基金の2つに分けて寄付をお願いしますが、すぐに使える年次寄付には皆さんが協力してくれますが、恒久基金には、なかなか寄付をしていただけないので、3年前からアメリカを中心にロータリーカードを作っています。

川口ガバナーからもクラブ会長宛にロータリーカードのことがいっていると思います。このロータリーカードはアメリカのマスターカードで、日本のオリコが担当しています。どうしてマスターカード、オリコになったかといいますと、これは4つのテストで入札のときにきちんと競争させて選びました。信頼してもらって、不正使用はしないということで、他人がこのカードを不正使用しようとした場合、盗難にあった場合、紛失した場合は一切カード会社が全部補償してくれます。しかも、このシルバーカードの会費は永久無料です。ロータリーの大きなマークがついていますから、会員証の代わりに世界各国で使えます。国際ロータリーのスタンダード・マスターカードにぜひ入っていただきたいと思います。

アメリカでは3年前からこのカードを発行していますが、日本では今、出発したばかりで、ほとんど行き渡ってはいません。このカードで買い物をすると、その0.3%が財団に入ります。日本の会員も入ると、買い物額の0.3%と小額ですが、カード会社が財団の恒久基金に寄付をしますので、

財団の恒久基金寄付はしっかりとしたものになるのではないかと思います。皆さんもぜひ、会員になってくださるよう、お願いします。このカードの紹介が、現在、わたしに与えられている仕事です。どうぞよろしくをお願いします。



国際ロータリーでは25年前から、地球上からポリオを根絶することを目標にして、皆さんにワクチンを買うためのお金や実際に生ワクチンを投与する運動に直接参加してもらって、インドに行ったりしていただきました。これは、昭和30年に八戸辺りでも、ポリオのワクチンがなくて困ったことがありまして、北海道でも大流行しました。当時、八戸にも国にもないし、アメリカでもワクチンが足りない。それで、八戸の開業医の岩淵先生がソ連にお願いして、ソ連からワクチンをいただいて、八戸の子どもたちが助かったという事実があります。そのポリオを根絶することは、ほぼ成功しかけています。内戦の続くアフリカ、政情不安のネパール、インドなどで100%にはなっていませんが、98%は撲滅されています。一時的に撲滅されても、それが再発するかもしれないので、これを管理していく資金も要りますので、よろしくご協力をお願いします。ポリオをなくそうというのは、ロータリーがユネスコを通して、国際に働きかけた。ユネスコを作ったのもアメリカのロータリアンの代表です。

こういう輝かしいロータリーの歴史を21世紀のこれからの100年も、皆さんの力で発展させていきたい。われわれはそれを誇りに思って、ロータリー運動を続けていこうとするわけです。今はロータリーも大きな組織になってきていて、巨大に複雑になってきて、問題がいろいろ出ています。それで、去年の6月の規定審議会でクラブレベルでのロータリー情報の徹底教育、トレーニングが通りました。それを具体的にどういうふうにするかは、RI 理事会に任せるという決議文が通りました。そして、11月の RI 理事会でこれはすぐに

採択されて、具体的なことが決まりました。それは、ロータリーはあまりにも巨大化して、複雑化しているので、それがクラブにも影響している。クラブの組織も簡略化してもらいたい。クラブ細則を改正して、クラブ理事会のほかのクラブ委員会は5つだけにさせていただきたい。このように理事会が決めました。次年度会長、幹事さんは早速、今日からでも取り組んでもらいたいと思います。

そして、6月の規定審議会の内容に基づいて、手続要覧の日本語版がつい最近できましたので、皆さんはそれを待っていたかと思いますが、その本に載っていない新しいことが、この11月の理事会で決まりました。しかも、それはいちばん大きなことなので、皆さんは手続要覧を見ても、印刷の内容は過去のものになってしまいました。この11月の理事会の内容は、国際ロータリーのホームページの日本語のところから出して、対応していただきたいと思います。クラブ組織のあり方は、クラブ理事会のほかに、クラブ委員会として：

- ①クラブ管理運営委員会：出席、親睦などクラブの運営面
- ②会員増強委員会：単に会員数を増やすだけでなく、退会防止などのクラブの組織を強化してもらいたい。
- ③奉仕プロジェクト委員会：従来の職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、WCS、日本では米山など、奉仕プロジェクト委員会を作って、その下に小委員会として、皆さんのクラブで大切なインターアクト委員会、青少年交換委員会、新世代委員会、社会奉仕委員会を作ってもよい。
- ④広報委員会：ロータリーでは、こういう素晴らしいことをしているから、地域住民、市民に、世界に広報活動をしてください。
- ⑤ロータリー財団委員会：これを基本にして、簡素化して、小さいクラブでもやれるようなクラブ細則に改正してもらいたい。それが、新しいロータリーの生き方で、この21世紀に生き残るためには、あまりにも巨大化になりすぎたロータリーを反省して、もっと現実的に適応したロータリークラブの生き方を、皆さんで探していただきたいということです。